私たちの声で変えていこう！ あるべきオリンピックに向かって

2020オリンピック・パラリンピックを考える都民の会と第12回東京地方自治研究集会実行委員会が主催する提言討論会「私たちの声で変えていこう！あるべきオリンピックに向かって」が、10月13日、けんせつプラザ東京で開催されました。提言討論会での田原淳子国士舘大学体育学部教授による講演「ユネスコとIOCの憲章から見る2020五輪の意義と課題」と、オリパラ都民の会共同代表の和食明夫さんの「オリンピックは平和とともに…平昌大会から学ぶ」、スポーツジャーナリストの大野晃さんの「ジャーナリストから見た2020オリンピック」の二つの報告を紹介します。（文責・見出しとも編集部）

スポーツの理念を実現

国士舘大学教授 田原淳子

田原さん

日本が自国のオリンピック史から主張できること、すべきことの第1点は平和へのメッセージです。これは幻の東京オリンピック・札幌オリンピックです。たいへんな努力をして招致に成功したのに、その翌年、中国と全面戦争を始めてしまう。そして物心両面、にっちもさっちもいかなくなって、IOCからも返上した方がよいといわれ、海外からの圧力もあるなかで、残念ながら返上せざるを得なくなってしまった。そういう歴史です。こういう国はほかにはありません。

それから教育のレガシーです。64年の東京オリンピックのときの教育は組織的に行なわれた世界で最初のオリンピック教育でした。そこのレガシーは大事にしていく必要がある。当時60万人の小中高校生が東京オリンピックを見学に来ています。そして子どもたちは素晴らしい感性で作文を残しています。

この平和と教育、これがオリンピックの2大思想なのです。これをしっかり受け止めて発信していく。日本はその発信ができる国、また発信して説得力のある国です。そこをもっと強く打ち出していかなくてはいけない。そして自分たちの国のことだけを考えるのではなく、他の国の人たちに何ができるのかということをもっと考えていかなくてはいけない。もっと外向きのオリンピックにして行かなければいけません。

新国立競技場建設現場

平和に向かう変化

オリパラ都民の会 和食昭夫

和食さん

オリンピックはモデルです。そこで活躍する選手、涙を流す選手をみて、人々が感動したり、自分を振り返ったりするモデルです。ですからそこで終わりではありません。それを受け止めて普通の一般の人たちがどういうふうに行動していくことができるのか。それがオリンピックの世界だけで理念が実現されていればいいという話ではなく、オリンピックの良い悪いも含めて受け止めて、自分たちの身近なところでどうなのだろうか、IOCの理念、ユネスコの憲章に照らして、スポーツの理念が実現されているのかということを検証していく。そして足りないところがあれば変えていく必要がある。とくに日本の場合はあらゆるところでジェンダーの平等、多様性の尊重といったことがまだまだ不十分です。そこをどうやって変えていけるか。スポーツの価値を高めていく努力が必要です。

韓国の文在寅大統領は国連の演説の中で、多国間対話による平和の実現が国連の精神だとし、朝鮮半島はその精神が最も必要な場所と述べ、同時に北朝鮮の平昌五輪への参加を強く求めました。

平昌五輪では北と南が統一行進を行ないました。また初めて女子アイスホッケーで合同チームを結成して出場しましたし、合同の応援やエールの交換をすることがありました。平和に向かっての新しい変化がここで醸し出されました。こういうことがその後の北と南の関係、アメリカとの関係でも大きな変化につながりました。

平昌五輪後、3月28日に韓国文化体育観光部は2030年スポーツビジョン大国民報告会を開き、2030年までの南北のスポーツ政策のロードマップを説明しています。2030年のFIFAワールドカップの協同誘致、また南北朝鮮と中国、日本など東北アジアの共同開催の検討などが言われています。そして様々な国際大会に共同のチームを派遣して行くことも検討されています。その後のジャカルタのアジア大会でも南北の統一行進が行なわれ、合同チームが女子バスケットボール、ボート、カヌードラゴンの3種目で結成されました。

9月19日の平壌宣言では、第4項目の南北の和解と各分野の交流の2番目に、南北は2020年夏季五輪を始めとする国際競技に共同で積極的に出場し、32年夏季五輪の協同開催を誘致することで協力することにしたと明文化されました。平昌五輪ではどちらかというと南の側の働きかけという側面が強かったのですが、平壌宣言では北と南の合意事項として確認されている点に大きな特徴があります。

大野さん

2020東京オリンピックに思う

大関さん

かかりすぎる経費に疑問

【多摩西部・LGSボード・大関勝義談】オリパラに関しては経費があまりにもかかっていることに疑問を持っていました。地方自治体がオリパラのために経費が掛かったり、いろいろな影響が出たりしていることもたいへんなことだと思います。

恒久施設の将来の維持費がかかって赤字にして行くのであれば、平昌大会で開会式を行なったスタジアムがすでに壊されているように、新たな使い道の建物を作るようにした方が、オリパラ後の建設関係にとっても、良いのではないでしょうか。

国立競技場は壊すと言われているのに、復興財源を使って中の改修をしていました。なぜやらなくてもよいような改修工事をやったのかなというのが疑問に残っています。震災復興では、困っている人が大勢いるのに、もったいないと思いました。

油屋さん

選手村問題はモリカケ以上

【江東・ハウスクリーニング・油屋正孝談】アスリートも自衛隊員も同じような扱いをされていると感じました。アスリートは海外へ行ってしのぎを削って成長し、自衛隊員は人を殺していないからアマチュアなのだけれど、人を殺してプロになれと言われているのではないでしょうか。

「けんせつ」前号でも紹介された選手村の問題はモリカケ以上の問題です。今年の初めくらいに畔上都議から聞いて知っていましたが、報道がされないので未だに良く分かりません。支部でも問題にしていないし。オリンピックにむけて羽田空港への旅客機増発も問題です。横田基地があって制空権はアメリカに握られています。地位協定の見直しが必要です。

オリンピック憲章やIOCの使命はその通りだと思いますが、JOCは腰砕けです。

思いやり五輪にする

ジャーナリスト 大野晃

ウソを掲げて無理やりもってきたオリンピックなので柱がありません。マスメディアはメダル獲得の期待感をあおることばかりです。アジア大会で勝ったから今度は東京オリンピックで勝ちますということを毎日やっています。それで平和運動であるといったことは一言も出てこない。パラリンピックで観客が入らないと商売にならないと、報道ではなく宣伝をしています。

有力な全国紙は組織委員会の協賛団体です。一緒に儲けようと広告が中心です。どういうイベントが儲かるかとやっていますが、東京オリンピックに柱がないから何を中心にしてスポンサーを集めたらよいかもわからないのです。

オリンピックをもってきて再開発による不動産投資を拡大してそれで景気浮揚する。あるいは外国人観光客を集客して景気浮揚する。そういう目的だから、そのためだけの施策をやろうとしています。それでおもてなし五輪といっていますが、おもてなしは参加ではない。国民の運動にはなりません。わたしは思いやり五輪にしようと提案してきました。9条の旗を掲げて思いやりのオリンピックをやりましょう。9条を守るのはオリンピックを成功させることだと、世界に向かって我々には9条があるとがんばったらどうでしょうか。